

1. 事業名称等

- (1) 事業名称：登録有形文化財の家守りグループサポート事業
- (2) 実施団体：歴史・文化のまちづくり研究会（家守グループ）
- (3) 事業委託経費：

① 経費予定額	1, 520, 000円
・支出額合計	1, 580, 000円 (A)
・収入額合計	60, 000円 (B)
・差引合計	1, 520, 000円
② 再委託費	0円

2. 事業の目的

- (1) 文化財建造物の管理活用組織強化
 - ・文化財建造物を管理活用する組織を強化するため、これまでの任意団体の家守グループを特定非営利活動法人とする。そして、管理活用に関するセミナーを開催する。
- (2) 文化財保護の新たな体制づくり
 - ①文化財建造物の候補の発掘とリストづくり及び働きかけ
 - ・「近代建築総覧」にリストアップされた建物の特別区の残存調査は既に行っていたため、今回の事業で市町村部の調査を行い、登録有形文化財の候補として残存建物を把握し、リストを作成し、公開する。また、住宅について保存意向調査の調査を行う。
 - ②登録得湯系文化財の写真点の公開
 - ③登録有形文化財の建造物の定期的な点検方法の検討
 - ・登録有形文化財として登録された後、特に点検は行われていない。そのため、所有者が自主的に点検するシートと専門家が定期的に点検するシートの案を作成し、試行する。
 - ・また、登録有形文化財の修理や所有者の履歴がわかる履歴書（案）を作成し、試行する。
 - ④東京都登録有形文化財所有者の会と協働によるセミナーの開催
 - ・東京都登録有形文化財所有者の会と協働し、東京都内の登録有形文化財所有者に対して、管理活用に関するセミナーを開催する。
- (3) 管理・活用に関するネットワークの構築
 - ・登録有形文化財の保存・管理・活用のための幅広いネットワークを構築する。
- (4) 文化財建造物防災に関する活動
 - ・耐震診断の研修会の開催、及び耐震予備診断を実施する。

3. 事業活動の内容

事業活動の内容は次の通り。

- (1) 文化財建造物の管理活用組織強化
 - ・平成 25 年 7 月以後、特定非営利活動法人化にむけて検討を重ねる。
 - ・平成 25 年 11 月 9 日、設立総会開催。
 - ・平成 26 年 2 月 13 日、都に申請。「特定非営利活動法人 歴史的建造物とまちづくりの会」
(※特定非営利活動法人化に向けての活動は団体の自主活動であり、事業対象外)

- ・管理・活用に関するセミナーは登録有形文化財所有者へのセミナーと合同で開催。
- (2) 文化財保護の新たな体制づくり
- ①文化財建造物の候補の発掘とリストづくり及び働きかけ
- ・平成 25 年 8 月～9 月、市町村部の建物の残存調査実施。ホームページで公開。
 - ・平成 25 年 10 月～11 月上旬、住宅所有者へのヒアリング調査を実施。登録に関心のある方にはパンフレットによる説明を行った。
 - ・平成 25 年 12 月 11 日～14 日：旧前田侯爵邸洋館にて、東京都と共催の写真展開催。
- ②登録有形文化財の建造物の定期的な点検方法の検討
- ・平成 25 年 8 月～12 月、所有者による自主点検シートと専門家による点検するシートの案、及び建物の履歴書の案を作成、検討。
 - ・平成 26 年 1～2 月、所有者による自主点検シート（案）は、東京都の登録文化財所有者の会の役員に試行していただき、改良を加えた。
 - ・所有者自主点検シートは、「文化財としての価値」、「外部」、「内部」、「周辺環境」に分け、簡易にするため、それぞれ、○、△、X で記入するようにした。
 - ・外部は、基礎、縁回り及び床下、外壁・塀、屋根の項目で構成。
 - ・内部は、床及び畳、柱及び壁、建具、金物、塗装の項目で構成。
 - ・周辺環境は、動物・昆虫、樹木、排水、擁壁・石垣、日照と通風、外郭及び保護柵、火災対策の項目で構成。
 - ・専門家による点検シート（案）は項目数が自主点検シートより多く、点検結果に対して、詳細調査の必要性や対策を記入する欄を設け、全体的な管理の注意点を記入するよう構成。
 - ・建物の履歴書は、法的条件、文化財の価値、所有者の変遷、修理の履歴等で構成。
- ③ 東京都登録有形文化財所有者の会と協働によるセミナーの開催
- ・都内の所有者に対して、見学会を兼ねた管理活用に関するセミナーを 2 回開催。
 - ア) 第 1 回セミナー：「登録文化財の保存と活用」
 - ・日時：平成 25 年 9 月 13 日（金）15:00～16:30、以後見学会と懇親会
 - ・会場：鳳明館森川別館（文京区本郷 6-23-5）
 - ・講師：日塔和彦（元東京芸術大学客員教授）
 - ・参加者数：28 名
 - イ) 第 2 回セミナー：「登録文化財の維持・管理」
 - ・日時：平成 25 年 11 月 15 日（金）15:00～16:30、以後見学会と懇親会
 - ・会場：実相寺（大田区池上 2-10-17）
 - ・講師：三船康道（歴史・文化のまちづくり研究会代表）
 - ・参加者数：13 名
- (3) 管理・活用に関するネットワークの構築
- ・登録有形文化財の保存・管理・活用のための幅広いネットワークを構築するため、設立予定の NPO に参加を呼び掛けている。
- (4) 文化財建造物防災に関する活動
- ・当初、耐震診断の研修会を予定していたが、第 1 回セミナー後のアンケートでは、「耐震診断」の希望者が少なく「維持・管理」を希望する人が多かった。そのため、予定を変更し、前述のように第 2 回セミナーは「維持・管理」をテーマに開催した。

4. 事業の成果

今年度の事業による成果は次の通り。

(1) 文化財建造物の管理活用組織強化

- ・NPO設立後は、信頼される組織として期待されると考えている。

(2) 文化財保護の新たな体制づくり

①文化財建造物の候補の発掘とリストづくり及び働きかけ

- ・平成25年8月～9月、「近代建築総覧」における市町村部の建物の残存調査実施。33年経過して残存建物の割合は37.3%。特別区より10%程度多い。住宅の残存数は少ない。
- ・平成25年10月～11月上旬、住宅へのヒアリング調査実施。ヒアリング調査によれば、都下の場合、保存・維持するための職人等の確保については、これまでの関係ができており今のところ問題がない。NPOについてもとりたてて関心は少ない。
- ・登録の希望者がいたため、パンフレットによる説明を行い、建物調査も行った。
- ・写真展は東京都がホームページで公表、実質3日間で入場者数1848人。

②登録有形文化財の建造物の定期的な点検方法の検討

- ・所有者による自主点検シートは、所有者の会からはこういうものが欲しかったと評判は良かった。内容は、簡単に答えられるようなシートが望まれている。
- ・専門家による定期点検シートは、当初は特殊建築物定期検査のような内容を検討した。しかし、いきなりレベルの高いものを目指すのではなく、とりあえずは、自主点検シートをレベルアップさせたものとし、実施しながら内容の検討をしていくことにした。定期検査はとりあえず3～5年に1度と考えている。
- ・建物の履歴書は、登録有形文化財の所有者が、自ら所有する登録有形文化財について、様々な情報を1つにまとめたものがあると便利、ということを試みた。ただ、建築基準法等の法的な面もあり、所有者のみで作成するのは困難で、専門家の協力が必要。

③ 東京都登録有形文化財所有者の会と協働によるセミナーの開催

- ・2回目のセミナーの参加者は、日程的に都合のつかない方もおり、少なかったが、登録有形文化財の所有者には定期的なセミナーが求められている。
- ・特に、管理・活用、そして維持・点検について関心が高い。

5. 事業実施後の課題

それぞれの項目別の課題は次の通り。

(1) 文化財建造物の管理活用組織強化

- ・東京都登録有形文化財所有者の会からの要請もあり組織化した家守グループであったが、今回、NPO化することにより、より責任のある組織としての活動が求められる。
- ・また、所有者の多様な要望に応えられるように、メンバーを増やし幅広いネットワークを構成し、要望に応じて行くことが課題と考えている。

(2) 文化財保護の新たな体制づくり

①文化財建造物の候補の発掘とリストづくり及び働きかけ

- ・今回の事業のおかげで、特別区ばかりではなく、市町村部における、「近代建築総覧」における近代建築の残存リストが揃い、都内で残されている近代建築の把握が出来た。

- ・これからは、これをベースに定期的に、残存状況を調査し活動する予定。
- ・そして残されている建物には、折を見て保存への働きかけることが課題。

②登録有形文化財の建造物の定期的な点検方法の検討

- ・登録有形文化財所有者の会の会員には、まず自主点検シートによる点検をしていただき、その後、専門家による定期点検の第1回目を実施することが課題と考えている。ただし、専門家による点検には、そのための費用負担が課題。
- ・このような定期点検が必要なこととして所有者に認識されるならば、登録有形文化財の維持・管理は、一定の水準が確保されることが期待される
- ・また、専門家による点検内容は、徐々に水準を上げることが課題。
- ・履歴書については、関心のある所有者に実施していただき、専門家にフォローしていただくことが良いと思われる。ただし専門家の費用負担の問題もあり、当面、修理工事等の折を見て行うなどの工夫が望まれる。

③東京都登録有形文化財所有者の会と協働によるセミナーの開催

- ・「保存・活用」そして「維持・管理」等について、登録有形文化財所有者の会とこれから設立するNPOが協働してセミナーを継続して行く。

6. 今後の展開

(1) NPOの充実

- ・平成26年度はNPOの初年度にあたり、活動が充実するようにメンバーを増やす。

(2) 近代建築の残存調査を整理、学会への報告

- ・今回の事業で調査した内容を整理し、改めた上で日本建築学会にて報告する。

(3) 所有者の自主点検

- ・所有者の会の会員に自主点検の実施。

(4) 専門家による定期点検

- ・所有者の会の会員に専門家による定期点検の1回目の実施。そして点検シートの改善。

(5) セミナーの継続

- ・登録有形文化財の所有者を対象にしたセミナーを継続的に開催する。講師には、NPOの職人による講師も交え、多角的な管理・活用、そして維持・管理に関するセミナーとする。

7. 点検の展開方法について

- ・所有者の自主点検と専門家の定期点検の組み合わせで実施する。
- ・所有者自主点検は年に1回、専門家の定期点検は3～5年に1回が良いと考えられるが、毎年の所有者自主点検を前提とすると、専門家の定期点検は5年に1度でも良いと考えられる。
- ・今回の点検シートでは専門家の費用負担は3～5万円/回。所有者の会の平均3.5万円/回。
- ・所有者の会の会員数40名。初回総額140万円/回。初回の費用が課題。
- ・公的補助金と所有者の会の負担、そして自己負担との兼ね合いが課題となる。

8. その他

- ・登録有形文化財の維持が困難として相談を受けることが増えてきた。今年度は2件相談を受けたが2軒の建物とも解体されてしまった。今後、受け皿をどうするかが課題と考えている。